別紙１

令和8年度はじめてのまちづくり活動応援プログラム（亀岡市支えあいまちづくり協働支援金）
申請事業概要一覧

NO	申請団体名 代表者名	申請事業名	実施対象 実施期間	設定課題(地域課題)	事業内容	目標	総事業費（円）	申請額（円）	決定額（円）
1	畑野プロジェクト 委員会 代表 奥野正三	畑野プロジェクト	第一に町内住民、第二に市内住民、第三に近隣市外の方々に対象を拡大 令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	畑野小学校が令和6年3月で閉校となり、地域住民も65歳以上が45％を超え、少子高齢化が進んできている。畑野町民1700名の地域住民間の活性化が薄れてきており、地域住民間には、将来を見つめて何か元気を出せる方法策がないかを求めてきている。	畑野小学校跡地の再利用を起爆剤として、町全体が持続可能な再生可能エネルギーや環境教育の促進、独自のスタートアップ事業を目指すプロジェクトを立ち上げ、取り組み行動を起こしていきたい。 畑野町は多様な世代の住民がおられる。この方々に新しい地域活動への参加を促して、畑野町のこれからの将来を一緒に考える。日々の生活から災害時の迅速な対応も含め、住民の繋がりと暮らしやすさが必要である。畑野小学校跡地を利用して、我々の活動が住民相互の協力を仰ぎ、暮らしやすさを実感できる楽しい場所作りと活気ある地域作りを進めて行く。	①　事業による変化・成果目標 SNS等で事業のアピールを広め、将来に向けて連携先企業を見つけていきたい。 町外のパートナーシップ・ミーティングに参加し、他団体との交流を深め、連携、協働した取り組みへと発展させる努力をしていきたい。 我々の地域主体の事業の在り方を多くの方に理解頂き、新規移住者とのつながりを深めていくことに努めたい。 ②　実施目標数値 SNSを活用して活動内容を定期的に発信することで、地域内外での畑野町の魅力をアピールして認知度を高め、賛同参加者の増加を図る。 集客目標　年間2800人以上 ・桜まつり　500人　・とんど祭り　200人 ・スズメバチ退治講座　105人　・お化け屋敷　1,500人 ・エコフェスタIN畑野　200人　・ハイキングコース実施　200人	859,000	150,000	90,000
2	梅の計画 会長 西野　愛	旧本梅小学校跡地利活用プロジェクト	育親学園校区（本梅町、東本梅町、宮前町、畑野町）、亀岡市内全域 令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	①子供をもつお母さんたちの悩み ②旧本梅小学校の維持費 ③本梅町の魅力が埋もれている	①きもだめしと数掛山城のコラボ：里山保全活動のほんめ里山ガーディアンズと連携し、登山が可能な状態を作る。次に、この歴史的財産を地元の風土記として紙芝居を作り読み聞かせ団体と連携し地元の子供たちに地元の歴史を知ってもらう活動を行っていく。 ②没入体験型play museumへ：昨年度より、既存の本梅町民文化祭と連動して「本梅こども文化まつり」を旧本梅小学校で開催している。今年度は、地元の作家さんに参加してもらい子供たちが体験できる文化際を実現していく。来年度以降これらを亀岡市全域に対象を広げ有償で楽しめるイベントとして実現可能か探りたい。	①事業による変化・成果目標 梅の計画スタッフを3名増やす。（イラスト編集、音響、デジタル系） イベントに関わるボランティア数を増やす。きもだめし30名、本梅こども文化まつり30名。 そのうち、中学生、高校生、大学生の参加者数目標10名。 梅の計画インスタグラムフォロワー数31名→100名 旧本梅小学校を活用し事業を立ち上げる地元住民を育てる。 本梅こども文化まつりに興味を持ってもらい、自分も作品を展示したいと思う人を増やす。10名。 ②実施目標数値 きもだめし、本梅こども文化まつりイベント2回 参加者数目標は各300名。 登山イベント1回　参加者50名	206,000	150,000	90,000
3	はるのひ -春日部を未来につなぐ会- 代表 酒井　裕子	自然と人とぬくもりと。 100年先へ紡ぐ私たちの 春日部プロジェクト	亀岡市曽我部町春日部区民、移住者、農地を借りている新規就農者、近隣の地域住民、SNSを見てイベント参加してくれた大阪府、京都市等近隣住民、また里帰りの子育て世帯等 令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	①【地域住民の高齢化、人間関係の希薄化】 ②【伝統行事・文化が継承できない】 ③【伝統食を伝える機会がない】 ④【しまい込んでいる人形・生活道具】	・『四季折々の伝統をつなぐ』事業 ・『豊かな自然発信』事業 ・『はるのひ憩いの場』事業	①事業による変化・成果目標 ・地域住民がつながり、会う回数が増え、会話が増えること ・多世代間の地域住民の交流が生まれること ・伝統食をはじめとする食育の機会が持て、子どもたちに伝わること ・しまい込んでいる人形等が日の目を見て、思い出話に花が咲き、住民同士に交流 ・会話が生まれること ・地域の魅力と課題を住民同士で話し合い、新たな活動を企画していくこと ・関係人口が増えること ②実施目標数値 実施回数：イベント　年５回　参加者50名 展示　年２回　参加者120名	232,520	150,000	130,000
4	ゆうゆう窯の会 代表 下川強史	竹炭窯の継承と竹資源循環による地域再生事業	・西別院町の住民 ・竹林の管理に課題を抱える土地所有者 ・自然体験や環境保全に関心のある一般参加者 ・地域の子どもおよび保護者 令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	西別院町では、竹炭窯の担い手であった方の高齢化により数年前に活動が停止し、現在は窯が十分に活用されていない状態となっている。 その結果、竹炭づくりを通じて行われていた地域交流が弱まる一因となり、さらに周辺竹林の管理機会も減少し、放置竹林の増加につながっている。 西別院町は都市部からの移住者も多い地域であるが、地域行事の縮小なども重なり、新旧住民が交流する機会が減少している。	本事業では、竹炭窯の継承・再生を中心に、以下の活動を実施する。 ・竹炭窯の修復および整備 ・炭焼き技術の継承と安全管理の習得 ・炭焼きに必要な竹の切り出しおよび竹林整備 ・竹炭づくりの実施 ・炭焼き体験や竹を活用した交流イベントの開催 ・地域住民、移住者、子どもたちの交流機会の創出 初年度は特に、経験者から指導を受けながら、竹炭窯の取り扱いや炭焼き技術、安全管理を学び、本会会員が継続的に窯を運営できる体制づくりを進めるとともに、地域住民の参加を呼びかけて、試行的に竹炭づくりや交流イベントを実施する。	①事業による変化・成果目標 ・竹炭窯の継承および再稼働 ・炭焼き技術や地域文化の継承 ・地域住民同士の交流促進 ・移住者と地域住民との関係づくり ・地域と学校をつなぐ活動の再構築 ・竹の継続活用による竹林の適正管理 ② ・炭焼き実施回数：年間2回 ・イベント開催：年3回 ・参加者数：延べ50人以上 ・竹林整備面積：400㎡～1000㎡	156,000	150,000	90,000
5	かめおかヘルスケアベース 代表 上田　梨奈	かめおか街の保健室プロジェクト	亀岡市民 令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	亀岡市の未来を担う30～40代の現役・子育て世代は、仕事・育児・家庭の両立により、慢性的な疲労や心理的ストレスを抱えやすく、自身の心身のケアを後回しにしがちな状況にあり、「気軽に相談できる場」や「自分を労る時間」へのニーズが高いことがうかがえる。 また、中高年・シニア世代においても定年後やライフスタイルの変化によって社会とのつながりが減少し、孤立や心身機能の低下につながる課題がある。「現役世代の未病ケア」と「中高年世代の孤立予防」この両方の隙間を埋める、地域型の健康支援が求められる。	① 地域交流型ヘルスケア講座の実施 ② 健康相談・カウンセリング支援 ③ 地域ニーズ調査と今後の活動への反映	①事業による変化・成果目標 30～40代の現役・子育て世代を中心に相談・交流できる環境を整え、未病段階でのセルフケア意識向上や孤立予防につなげる。 また、「自分を労る時間」を持つきっかけを作り、自己肯定感やセルフマネジメント意識の向上を目指しつつ、地域型ヘルスケア活動として発展させる。 ②実施目標数値 ・オンライン上での交流型セルフケア講座 ・ヘルスケア活動：年間4～6回実施 ・参加者数：マルシェ延べ100～150名程度/3回、ケア講座12人×4回 ・参加者アンケート回収：50件以上 ・SNS等による情報発信：月4～8回程度 ・健康相談およびセルフケア体験実施：各開催時に実施 ・地域施設、寺院等との連携開催：2か所以上	400,000	150,000	150,000
6	ぴんくりぼんかめおか実行委員会 代表 奥村　愛	ぴんくりぼんかめおか	亀岡市 令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	亀岡市においても、例外なく経済的な状況により共働き世帯が多く、子育て世代の場合やひとり親家庭の場合は乳がん検診を受診したくても仕事のために検診の時間が取れなかったり、子どもを預けることが出来ない等の理由で検診への意識が低下している。	自身の命、体を大切にすることが結果的には家族を守ることに繋がる為、検診への意識を高めていただくことで早期発見へと導く。また、セルフチェックやセルフケアの推進や情報提供につとめる。 ぴんくりぼんかめおかでは、乳がんだけではなく、検診の必要性を広げる。	①事業による変化・成果目標 亀岡市の取り組みでもある全国都市緑化フェア期間に合わせてイベントをする事により一層たくさんの方に知ってもらえる機会となり、ワークショップを通し環境面での学びもうまれ、子供たちにも学んでもらえる機会となる。 ②実施目標数値 観光客の方にも気軽に参加していただきたく、1000名を目標。	356,000	150,000	50,000
						合計	2,209,520	900,000	600,000